

# 神戸医療センター病診連携だより



No. 31

国立病院機構 神戸医療センター

〒654-0155 神戸市須磨区西落合3-1-1

TEL:078-795-6584 FAX:078-795-6591

## - 目 次 -

「地域のつながりの大切さ」(麻酔科医長 石川 麻子) .....	2
「緩和ケア内科からご挨拶」(緩和ケア内科 山川 宣) .....	2
臨床工学士の業務について(第1回).....	3
マルチスライスCTスキャナのご紹介～心臓CT検査～ .....	4
地域医療支援病院運営委員会を開催しました .....	5
第5回市民向けがん講演会を開催しました .....	5
【お知らせ】バス停が近くなります .....	6



国立行政法人 国立病院機構  
神戸医療センター  
National Hospital Organization Kobe Medical Center

## 地域のつながりの大切さ

神戸医療センター麻酔科医長 石川麻子

毎年、1月になると思い出す方がいます。

私は一時期、子供たちの小学校のPTAの仲間からの紹介で、民生委員主任児童委員をしていました。そのときお知り合いになった私の自宅がある東灘区地区の民生委員会長さんを長くやっておられたK氏です。

K氏は震災で小学校入学直前のお孫さんを亡くされましたが、地震の後に火災も発生し大きな被害を受けた地区の相談役・調整役として、復興に尽くしてこられました。私が神戸医療センターに赴任した約7年前に委員を退任した後も、K氏には地域の先輩として、人生の師匠として、折につけてお話を聞かせていただきました。K氏は数年前に他界されましたが、ひとつ仕事を始めたらできるだけ長く続けること、先約優先、など、いろいろなお話をしていた時間は私の宝です。



5年前、新型インフルエンザが神戸から全国初に出た時期に、母親が交通事故に遭い、高校生の子供たちは学級閉鎖で自宅から出られず、勤務は休めず、と大変でしたが、主任児童委員をしてつながりのあった地域の方々に助けていただきました。職場と家庭以外に地域のつながりがあるということは心が安らぎます。このときの主任児童委員仲間の方々とは「紅葉会」と称して、今も秋に年一回の集まりを続けています。

ご多忙なK氏から教わったことを心に、神戸医療センターでの安全な麻酔管理を通して、須磨地区の地域医療に微力ですが力を尽くしたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 緩和ケア内科からご挨拶

神戸医療センター緩和ケア内科 山川 宣

1月付けで、緩和ケア内科に赴任いたしました山川宣と申します。

信州大学出身で、内科などに携わったあと、聖路加国際病院緩和ケア病棟、六甲病院緩和ケア病棟と、緩和ケアの道に入りました。今回、神戸医療センターにて緩和ケア内科を立ち上げに携わることになりました。

これまで当院では、緩和ケアチームが入院中の患者さんに関わって参りました。しかし外来化学療法中など、通院の患者さんが増加している現状も踏まえ、早期からの緩和ケアを提供すべく、体制構築をしております。

現在は、当院に通院中（もしくは当院から地域の診療所へ紹介された患者さん）への緩和ケア外来を行っております。

今後の療養場所を問わない緩和ケアの提供がより求められる時代に、少しでもお役に立てるよう努力して参りますので、よろしくお願いたします。



## 臨床工学士の業務について（第1回）

はじめに大きく2つある業務の一つである医療機器管理業務から紹介していきます。当センターでは医療機器にかかる選定・評価・保守管理・廃棄までの一貫した業務・管理を行うために臨床工学技士を配置しています。医療機器を整備することにより、医療機器の適正な使用を推進し、医療安全対策に貢献することを目的としています。院内スタッフ1名の他、外部から専門の委託スタッフ2名を含む、計3名で業務を行っています。

### 臨床工学技士とは

厚生労働大臣の免許を受けて、医師の指示の下に維持管理装置の操作や医療機器の保守管理を行う事を業とし、一般に ME (Medical Engineering) もしくは CE (Clinical Engineering) と呼ばれている職業です。

業務内容としては以下の内容があります。

#### <医療機器安全管理業務>

医薬品医療機器総合機構（PMDA など）より医療機器に関連する情報を収集し、院内スタッフに情報提供

ME 機器管理システムによる包括的な機器管理業務

医療機器に関する現場での教育指導、啓蒙

#### <医療機器保守管理（メンテナンス）業務>

医療機器の中央管理システムを導入し、効率的に ME 機器を運用

院内での保守点検修理・メーカーへの窓口業務

主な医療機器には人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ等があり、医療機器を効率よく運用できるように機器を1箇所を集め中央管理しています。

このように医師をはじめ、看護師や他のコメディカルと共に医療機器を用いたチーム医療の一員として生命維



持をサポートしています。今後も医療技術の進歩に伴う医療機器の高度化・複雑化に対応し、操作保守管理を行い安全に使用できるように努めていきます。

次回は、臨床現場への医療機器に関する技術提供を行う臨床業務を紹介します。

## マルチスライスCTスキャナのご紹介 ～心臓CT検査～

当院では昨年5月に、東芝社製80列(160スライス)検出器のマルチスライスCTスキャナ(Aquilion PRIME / Beyond Edition)を導入し、7月より心臓CT検査を開始しました。80列CT装置は一般的な64列CT装置と比較して、心臓CT検査においても性能を発揮し高精細な画像の取得が可能です。当院の心臓CT検査は毎週火曜日の午後に検査枠を設けており、半年で62例の心臓CT検査を施行しました。およそ3割が病診連携より紹介いただいた患者様です。

心臓CT検査では、通常の造影検査に加え以下の点にも注意して検査を施行しています。

心拍数が高いほど良好な画像が得られにくいことから、必要に応じて遮断薬により心拍コントロールを行います。患者様には検査予約時間の1時間前に来院いただき、中央処置室にて看護師が前処置をいたします。

複数の心拍から特定の心位相を使用して画像を作成するため、一般的な撮影に比較して被ばくが多くなる傾向があります。しかし最新のCT装置では心臓CTにおいても被ばくを低減させる多くの機能を保有しており、積極的に使用して被ばくの低減に努めています。

微細な血管を描出させる目的で、通常よりヨード濃度が高い造影剤を使用しています。また右心系からの高濃度造影剤によるアーチファクトの除去、造影剤注入部から右心系までの静脈内に停滞した造影剤を有効に利用するために、造影剤注入直後に生理食塩水を注入します。

複数の心拍から収集された同位相のデータを用いて、微細な血管を描出させるため、呼吸運動によるブレを極力少なくする必要があります。患者様には、呼吸停止の重要性を説明し、数回の呼吸停止の練習後に撮影を行います。

検査終了後、心電図に同期させた画像を作成し、冠動脈の3次元画像(MIP,VR,CPR)構築、心機能解析を行いますので、結果説明は循環器科専門医が検査後2日以降にさせていただきます。

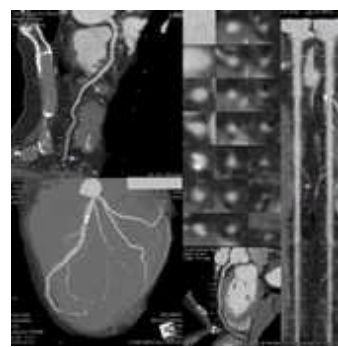
心臓CT検査においてもCT室スタッフ、循環器科専門医が協力し患者様に十分な検査説明を行い、精度の高い検査施行を目指しています。



(MIP 画像)



(VR 画像)



(CPR 画像)

## 地域医療支援病院運営委員会を開催しました

平成25年度の神戸医療センター地域医療支援病院運営委員会を、平成26年2月21日に当センター会議室で開催しました。

委員長の須磨区医師会長村上先生、神戸市医師会副会長置塩先生、垂水区医師会長数岡先生、神戸大学医学部附属病院特命教授佐々木先生、伊地智神戸市保健所長、日永須磨消防署北須磨出張所長、当センター倫理審査委員会委員伊藤様にご出席いただきご意見を賜りました。

委員会では、まず事務局より紹介率・逆紹介率、地域医療連携室への紹介実績、救急受入患者数、地域の先生方が参加する研修会の実績、地域医療連携室への相談実績等、病診連携の現況を報告しました。紹介・逆紹介件数については、地域医療支援病院の要件の見直しが検討されている状況を踏まえ、増加に向けてさらに努力していきたいことを説明しました。

続いて、現在当院が早期の運用を目指しております「連携医制度」について説明をいたしました。さらに、当院電子カルテの災害バックアップシステム「KOSMOS」(Kobe Over コスモス)の病診連携への利用について紹介しました。これは、開業医の先生が当院にお越しに来ることなく、ご自身の医院で、当院の電子カルテを閲覧できるというシステムです。

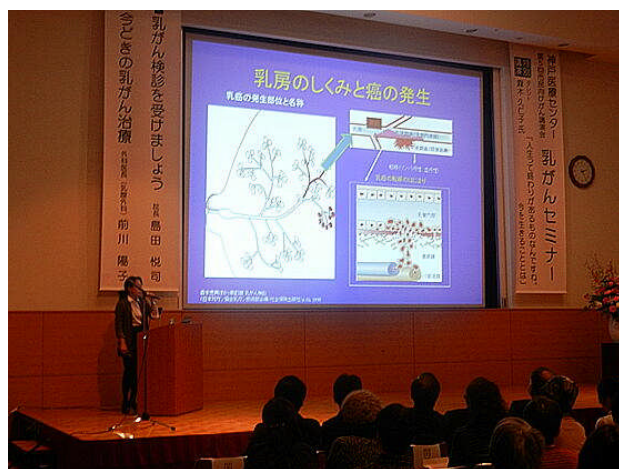
委員の先生方からは、連携医制度についてももう少し広報が必要であるとのご意見がありました。また、がん連携パスの運用状況や、在宅・転院調整の取り組み等についてご質問がありました。

最後に、島田院長より、法人形態の見直しや非公務員化による病院経営への影響、また建替も含めた当院の今後の展望について説明をさせていただきました。

当センターは今後も、地域医療支援病院として、地域に信頼される病院を目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。

## 第5回市民向けがん講演会を開催しました

第5回市民向けがん講演会を、平成26年2月23日(日)14:00から須磨パティオ健康館3階パティオホールで開催し、231名の市民の方にご参加をいただきました。



一般講演として、当センター島田院長より、「乳がん検診を受けましょう」と題して、定期的な乳がん検診受診の重要性を訴えました。次に、乳腺外科前川医長より「今どきの乳がん治療」と題して、乳がんの発生から最近の治療法までわかりやすく説明がありました。

特別講演には、タレントの麻木久仁子氏をお迎えし、「人生って終わりがあるものなんですね。～今を生きることとは」と題してご講演頂きました。講演では、マンモグラフィーで早期に乳がんが見つかり、手術を受けられたご自身の体験を話され、乳がん検診の大切さを訴えら

れました。時にはユーモアを交えて、明るく真剣に話される姿に、みなさん熱心に聞き入り、会は盛況のうちに終了いたしました。

今後も、当センターは国指定のがん診療連携拠点病院として、様々な形での情報発信を行ってまいりますので、是非ご参加をお願いいたします。

# バス停が近くなります！

神戸市交通局のご配慮により、4月1日から当センター最寄りのバス停「神戸医療センター前」を病院出入口付近に移設していただくことになりました。従前のバス停は「西落合住宅前」という名称に変更し、そのまま存続します。(右図参照)

今までは病院出入口から少し離れていたため、来院の方にご不便をおかけしていましたが、今後は利便性が向上することになると思います。

また、市バスの乗り継ぎ割引も開始されるということですので、市バスを乗り継いで当

センターに来院される場合の負担が大幅に軽減されます。詳しくは、神戸市交通局のリーフレットなどをご覧ください。

この度の神戸市交通局のご配慮に深く感謝申し上げます。

また、地域の先生方におかれましては、ご照会いただき患者さんにご案内いただけましたら幸いです。

## 神戸医療センター地域医療連携室

〒654-0155 神戸市須磨区西落合3-1-1  
TEL: 078-795-6584 FAX: 078-795-6591

開室時間 月～金曜日 午前8時30分～午後7時00分(祝日・年末年始を除く)

FAXは24時間稼働しておりますが、開室時間外や休日でのお申し込みの回答は翌開室日になります。